

# 「小松商工会議所景気見通し調査」

## 結果報告書

調査期間 令和 4年 3月

小 松 商 工 会 議 所

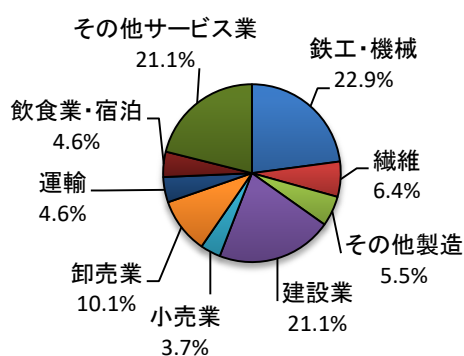
中 小 企 業 相 談 所

【調査対象】

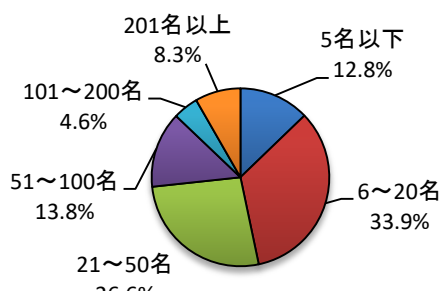
小松商工会議所 議員・評議員企業 221社

回答企業数 109企業（回答率 49.3%）

業種 / 従業員数		5名以下	6～20名	21～50名	51～100名	101～200名	201名以上	合計
製造業	鉄工・機械		3	7	6	3	6	25
	繊維	1	1	3	2			7
	その他製造	2		2	1	1		6
建設業			13	9	1			23
小売業		2			2			4
卸売業		2	5	3		1		11
サービス業	運輸		1	1	3			5
	飲食業・宿泊	3	1	1				5
	その他サービス業	4	13	3			3	23
合計		14	37	29	15	5	9	109



【業種別】



【従業員数別】

景況・業況の動向

【主要な表現について】

※業況判断 …… 調査対象企業が自らの業績に下した判断

※D I 値 ……D. I(デフュージョン・インデックス)とは企業の景況感を示す指数  
「好転」の割合から「悪化」の割合を差し引いた値(無回答を除く)

※前 期 …… 令和3年度第3四半期(令和3年10月～12月)

今 期 …… 令和3年度第4四半期(令和4年1月～3月、但し3月は見込み)

来 期 …… 令和4年度第1四半期(令和4年4月～6月)

【各項目別のDI値の意味について】

- (1)景 況 感 …… DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
- (2)売 上 高 …… DI 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
- (3)売上単価 …… DI 値がプラスなら「上昇」を、マイナスなら「低下」を表す。
- (4)資金繰り …… DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。

(5)採算性(経常利益)・・DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。

(1)-1 貴企業の景況感

(単位:社)

	鉄工・機械		繊維		その他製造		建設業		小売業		卸売業		サービス業	
	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期
好調	4	4	4	2		1	1				1	4	2	5
不変	18	12	1	3	6	4	15	12		2	3	4	18	19
悪化	3	9	2	2		1	7	11	4	2	7	3	13	9
総計	25		7		6		23		4		11		33	

Q「景況・業況の動向」の項目における「景況感判断」に関する理由

**【今期：好転の理由】**

受注が高水準で推移（鉄工・機械）
建設機械以外の受注増（鉄工・機械）
新規の案件が増えた（鉄工・機械）
コロナの終息「○」、ウクライナ情勢「×」（繊維）
織物関係が堅調である（繊維）
輸出好転（繊維）
昨年より受注が増加した（建設業）
上位ユーザー市場の環境が更に力強くなった（卸売業）
悪化している状態を好転させたく、値上げ交渉をしているが中々結果が出ない（運輸）
年度末による、工事集中により（その他サービス業）

**【今期：不変の理由】**

一時的な落ち込み(受注)はあるが、続いて高い生産の見込み（鉄工・機械）
建機関係が好調で生産状況は高推移で稼働（鉄工・機械）
主力の建機が好調である。その他も概ね好調のため（鉄工・機械）
特に大手得意先のオーダーに変更なし（鉄工・機械）
例年の傾向をふまえて（鉄工・機械）
客先が令和3年第3四半期と同様に好調な為（鉄工・機械）
稼働時間の変化無し（鉄工・機械）
値上げ幅が大きく、価格転嫁しても、追いつかない（鉄工・機械）
半導体不足による（鉄工・機械）
引き続きコロナや半導体不足などにより売上は回復していない（繊維）
不況業界と好調業界の受注相殺（その他製造）
毎年3月に瓦の出荷量が増加するため（その他製造）
年度変わりを控えて、やや需要が好転した（その他製造）
関連する市場での需要は概ね横ばい（その他製造）
官公庁工事発注状況について特に変わりなし（建設業）
受注が好調（建設業）
公共工事の発注が多い（建設業）
公共工事の為（建設業）
既客の設備投資（建設業）

新型コロナ感染拡大の為（卸売業）
前期に引き続き輸送需要は旺盛である（運輸）
時短要請がかかり、感染者数も多く客足が減少（飲食業・宿泊）
先が見えない現在、鉄工が好調だが、世界情勢が・・・（その他サービス業）
著変なし（その他サービス業）

**【今期：悪化の理由】**

資材原価の高騰 まだまだ続く（建設業）
労務・資材高騰の影響が大きい（建設業）
受注高、件数ともに減少気味（建設業）
人口減少 需要減少（小売業）
エネルギー、資材、物流費上昇と、売上ダウン（小売業）
まん延防止により人の動きが少なくなった為、卸部分の営業活動が静かになった（卸売業）
コロナまん延防止措置の再発令（その他サービス業）

**【来期：好転の理由】**

建設機械以外の受注増（鉄工・機械）
メーカー側の増産計画に追随（鉄工・機械）
令和3年度より10%の生産量が見込まれている為（鉄工・機械）
国内回復（繊維）
ウイズコロナで共存することとして、経済を回していくべきだという声が増えてきたため（繊維）
まん延防止の解除、取引先の増産（運輸）
まん延終了による消費増（卸売業）
まん延防止も終了して、少しは良くなるか（卸売業）
新型コロナの影響が落ち着く可能性がある（卸売業）
まん延防止期間解除と年度末により人の動きがより期待できる（卸売業）
祈っている（飲食業・宿泊）
新型コロナウイルスの影響減少（飲食業・宿泊）
まん延防止が解除される（その他サービス業）
新型コロナウイルスも治まり経済が動いていくと思われるので（その他サービス業）

**【来期：不変の理由】**

あらゆる原材料が上がり続けているが、それを売上単価に転嫁させてもらえない（鉄工・機械）
原油・円高の影響で燃料価格が高騰（鉄工・機械）
受注見通しに大きな変化はない（鉄工・機械）
客先の生産計画による（鉄工・機械）
取引先からの情報と自社情報を精査（鉄工・機械）
特別なマイナス要因も見当たらず、受注の高止まり感あり（鉄工・機械）
メインの取引先が好調なため（鉄工・機械）
例年の傾向をふまえて（鉄工・機械）
オミクロンが当分続くと予想、これに対応するには時間がかかる（繊維）

織物関係の堅調さが継続されると予想されるため（繊維）
4月より売上単価を上げること決定している（その他製造）
コロナ禍の影響の予想がつかない（その他製造）
横ばいの見込みだが不透明感が強い（その他製造）
官公庁工事発注状況について特に変わりなし（建設業）
昨年度が悪く、今年度の見通しは不透明だが、やや好転している（建設業）
引き続き受注が見込める（建設業）
夏場辺りまで受注見込み等減少気味（建設業）
急速に良くなる要因がなく、費用上昇が圧迫する（小売業）
インフレの加速、金利上昇懸念（小売業）
経費拡大の影響が出てくるには、まだまだタイムラグあり（卸売業）
上位ユーザー市場の好調が続く（卸売業）
今している交渉が上手くいけば好転するかもしれない（運輸）
感染者の減少があまりみられない（飲食業・宿泊）
県民割などでよくなるかも（飲食業・宿泊）
コロナがまだ終息していないため（飲食業・宿泊）
コロナで全体が冷え切っている中、ロシア関係で更に冷える（その他サービス業）
コロナ、ロシア（その他サービス業）
3/21 からまん延防止重点措置が解除されることとなり、航空旅客の増加が期待できる (その他サービス業)
特に大きな変化はない（その他サービス業）

**【来期：悪化の理由】**

コマツ様ロシア輸出停止（鉄工・機械）
ロシア、ウクライナの戦争の影響が出るだろう（鉄工・機械）
ウクライナとロシアの戦争、特にロシアの不安定化（繊維）
今後、ロシア関連の影響が予想されるが計画的には不透明（鉄工・機械）
ロシア向け鉱山機械のキャンセルあり、オーダーの減少が見込まれる（鉄工・機械）
業界特有の季節性による閑散期に入る（鉄工・機械）
コロナ状況によつての変化があると思う（建設業）
資材の高騰（建設業）
材料価格の上昇（建設業）
原油価格の高騰により影響をうける（建設業）
受注量の減少の見通し（建設業）
公共工事が少ないため（建設業）
世界情勢は混沌としており、物価高により景気は落ち込む（運輸）
例年、第1四半期は、年度初めの為落ちる（運輸）
コロナまん延防止解除、コマツ関連(建機)の回復が見込まれるも、ウクライナ問題が足枷 (その他サービス業)

## (1)-2 DI値

(単位:DI)

		前期	今期	来期
製造業	鉄工・機械	23.1	4.0	▲ 20.0
	繊維	▲ 16.7	28.6	0.0
	その他製造	0.0	0.0	0.0
	製造計	12.8	7.9	▲ 13.2
非製造業	建設業	▲ 13.0	▲ 26.1	▲ 47.8
	小売業	▲ 71.4	▲ 100.0	▲ 50.0
	卸売業	10.0	▲ 54.5	9.1
	サービス業(運輸含む)	11.4	▲ 33.3	▲ 12.1
	非製造計	▲ 4.0	▲ 38.0	▲ 22.5
全 体		1.8	▲ 22.0	▲ 19.3
改善予測		▲ 0.9	2.7	—

※改善予測 (「来期」見通しから「今期」を差し引いた値、プラスの場合は今期より来期の方が上昇するという予測)

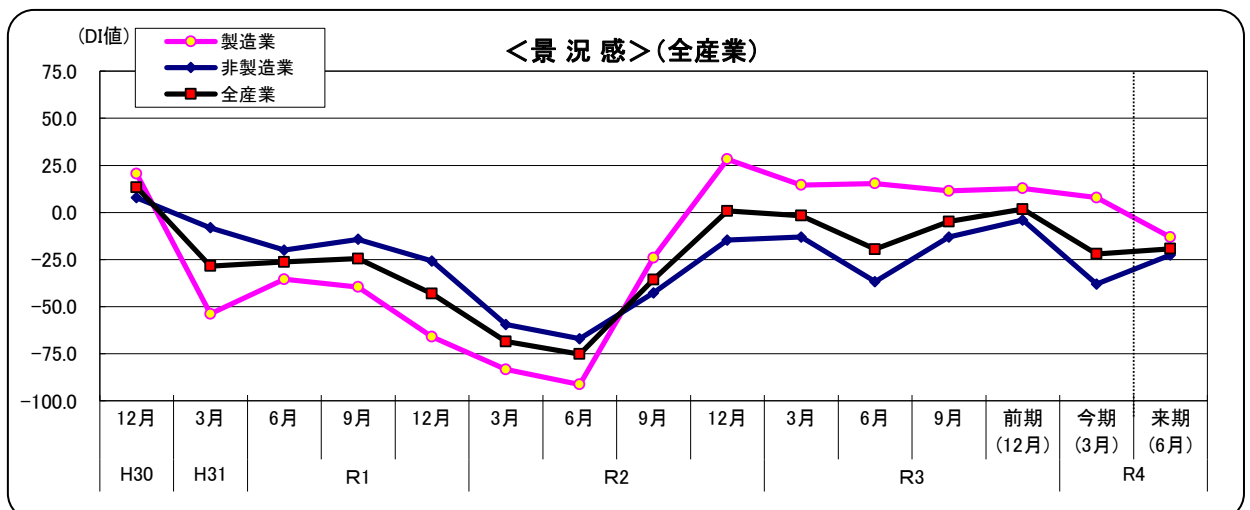
製造業については、高い値で推移していた鉄工・機械が、前期 23.1 ポイントから、今期 4.0 ポイント、来期 ▲20.0 ポイントと、急激に下降している。繊維は、前期 ▲16.7 ポイントから、今期 28.6 ポイントと上昇したが、来期 0.0 ポイントと下降、その他製造は、前期、今期、来期共に、0.0 ポイントであった。

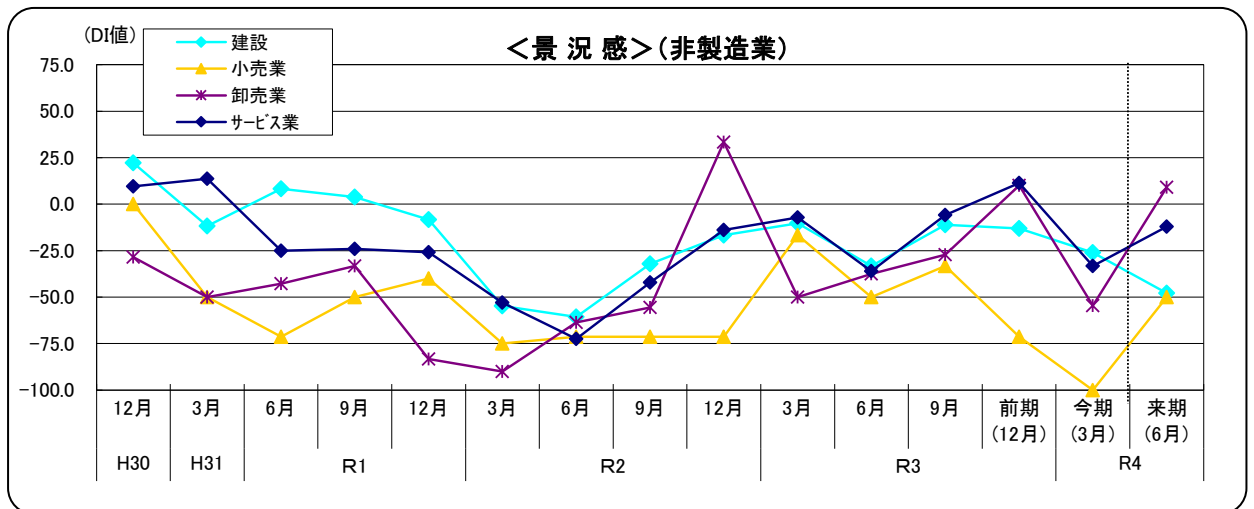
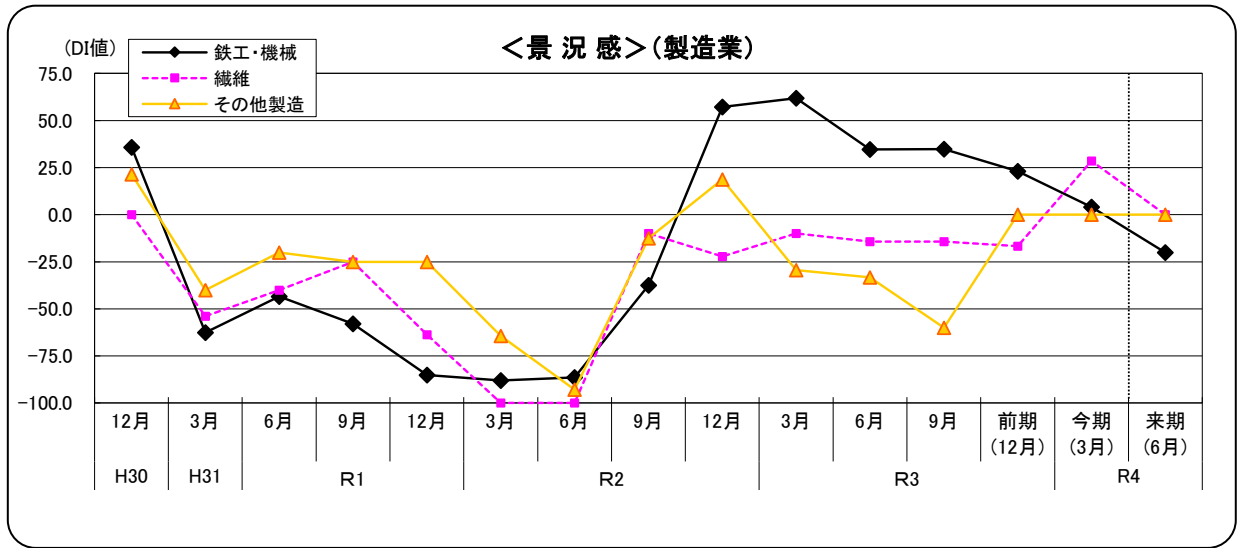
非製造業については、建設業は、前期 ▲13.0 ポイント、今期 ▲26.1 ポイント、来期 ▲47.8 ポイントと下降、小売業は、前期 ▲71.4 ポイント、今期 ▲100.0 ポイント、来期 ▲50.0 ポイント、卸売業は、前期 10.0 ポイント、今期 ▲54.5 ポイント、来期 9.1 ポイント、サービス業は、前期 11.4 ポイント、今期 ▲33.3 ポイント、来期 ▲12.1 ポイントであった。非製造業全体では、前期 ▲4.0 ポイント、今期 ▲38.0 ポイント、来期 ▲22.5 ポイントと不安定な状態が続いている。

全体については、前期 1.8 ポイント、今期 ▲22.0、来期 ▲19.3 ポイントであった。

前期一旦落ち着きをみせていたコロナ禍は、新変異株「オミクロン株」の感染急拡大により第6波が到来し、高止まりしている。また、原油や原材料価格の高騰、ロシアのウクライナ侵攻、人手不足など不安要素が多岐にわたり、先行き不透明な状態が続いている。3月21日からまん延防止重点措置が解除され、Go To イートや県民割りの再開などにより、消費が活気づく事を期待したい。

## (1)-3 年次別の推移





(単位:DI)

区分	今期(R4.3)			来期(R4.6)			備考
	小松地区	北陸三県	全国	小松地区	北陸三県	全国	
製造業	7.9	0	2	▲ 13.2	0	0	38社
非製造業	▲ 38.0	▲ 12	▲ 2	▲ 22.5	▲ 17	▲ 5	71社
全体	▲ 22.0	▲ 7	0	▲ 19.3	▲ 10	▲ 3	109社

※北陸三県並びに全国の数値は 日銀金沢支店・短観(全国企業短期経済観測調査)より

(1)－(5) 景況感、売上高、売上単価、資金繰り、採算性(経常利益) DI一覧表

今期(令和3年度第4四半期)の状況

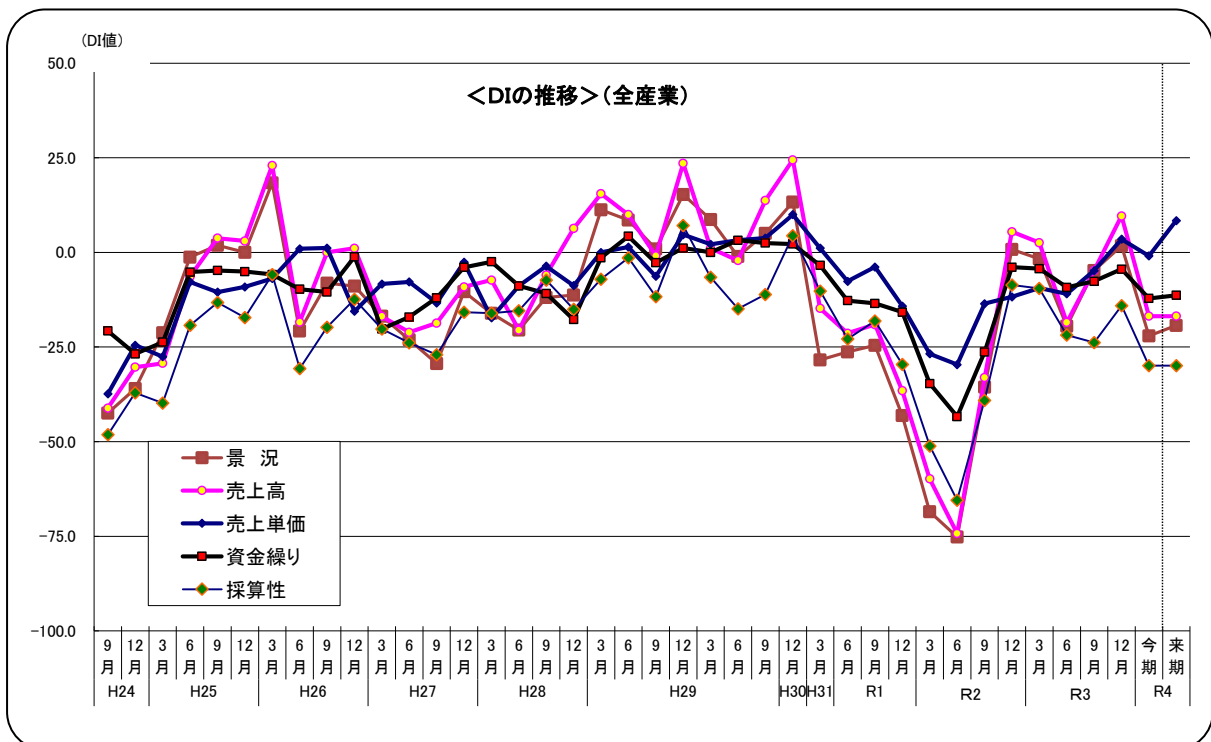
(単位:DI)

	景況感	売上高	売上単価	資金繰り	採算性
鉄工・機械	4.0	16.0	24.0	▲ 4.0	▲ 12.0
繊維	28.6	28.6	28.6	28.6	14.3
その他製造	0.0	50.0	0.0	16.7	▲ 16.7
建設業	▲ 26.1	▲ 34.8	4.3	▲ 8.7	▲ 43.5
小売業	▲ 100.0	▲ 50.0	▲ 25.0	▲ 50.0	▲ 50.0
卸売業	▲ 54.5	▲ 36.4	9.1	0.0	▲ 45.5
サービス業	▲ 33.3	▲ 41.9	▲ 32.3	▲ 35.5	▲ 38.7
全体	▲ 22.0	▲ 16.8	▲ 0.9	▲ 12.1	▲ 29.9

来期(令和4年度第1四半期)の見通

(単位:DI)

業種	景況感	売上高	売上単価	資金繰り	採算性
鉄工・機械	▲ 20.0	▲ 32.0	12.0	▲ 16.0	▲ 48.0
繊維	0.0	▲ 14.3	0.0	▲ 14.3	0.0
その他製造	0.0	▲ 16.7	16.7	▲ 16.7	▲ 33.3
建設業	▲ 47.8	▲ 26.1	4.3	▲ 13.0	▲ 47.8
小売業	▲ 50.0	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 50.0
卸売業	9.1	0.0	18.2	0.0	▲ 27.3
サービス業	▲ 12.1	▲ 3.2	9.7	▲ 6.7	▲ 6.5
全体	▲ 19.3	▲ 16.8	8.4	▲ 11.3	▲ 29.9
改善予測(今回)	2.7	0.0	9.3	0.8	0.0
改善予測(R3.12)	▲ 0.9	▲ 11.4	▲ 6.2	▲ 5.4	▲ 9.0
改善予測(R3.9)	0.0	▲ 6.6	1.0	▲ 1.0	0.9

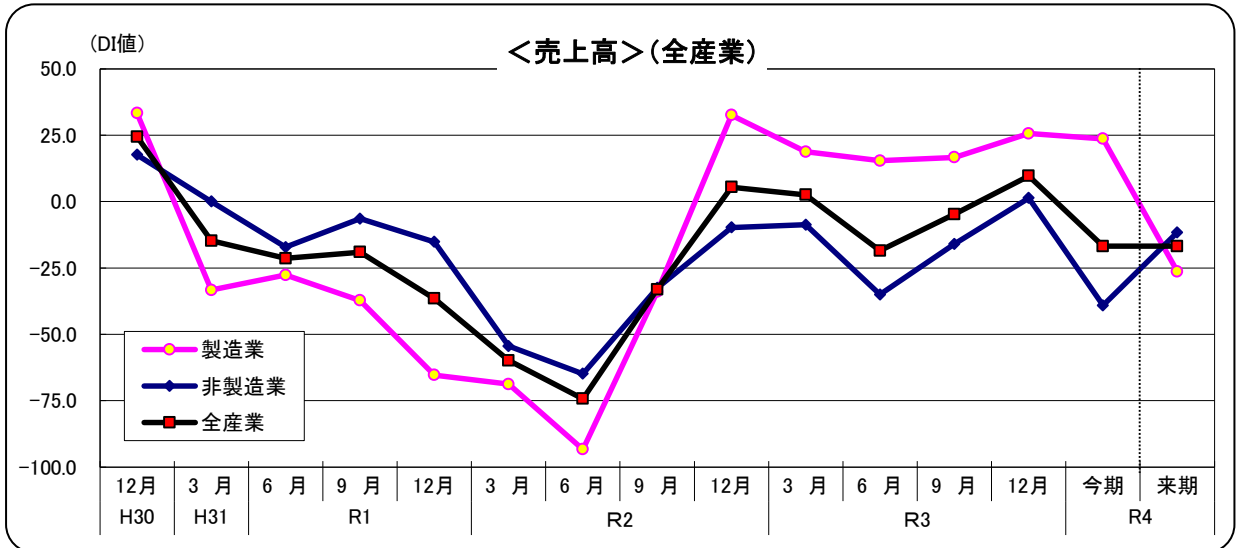




(2) 売上高

(単位: DI)

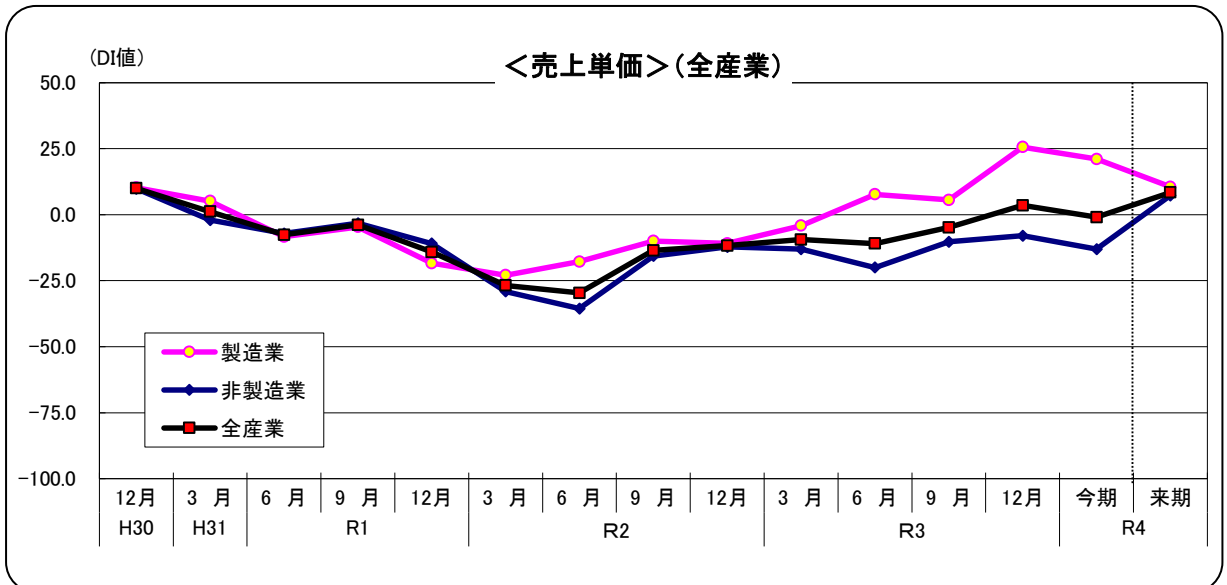
	製造業				非製造業					全産業
	鉄工・機械	繊維	その他	製造計	建設業	小売業	卸売業	サービス業	非製造計	
来期	▲ 32.0	▲ 14.3	▲ 16.7	▲ 26.3	▲ 26.1	▲ 25.0	0.0	▲ 3.2	▲ 11.6	▲ 16.8
今期	16.0	28.6	50.0	23.7	▲ 34.8	▲ 50.0	▲ 36.4	▲ 41.9	▲ 39.1	▲ 16.8
前期	34.6	▲ 33.3	42.9	25.6	▲ 13.0	▲ 14.3	0.0	14.3	1.3	9.6



(3) 売上単価

(単位: DI)

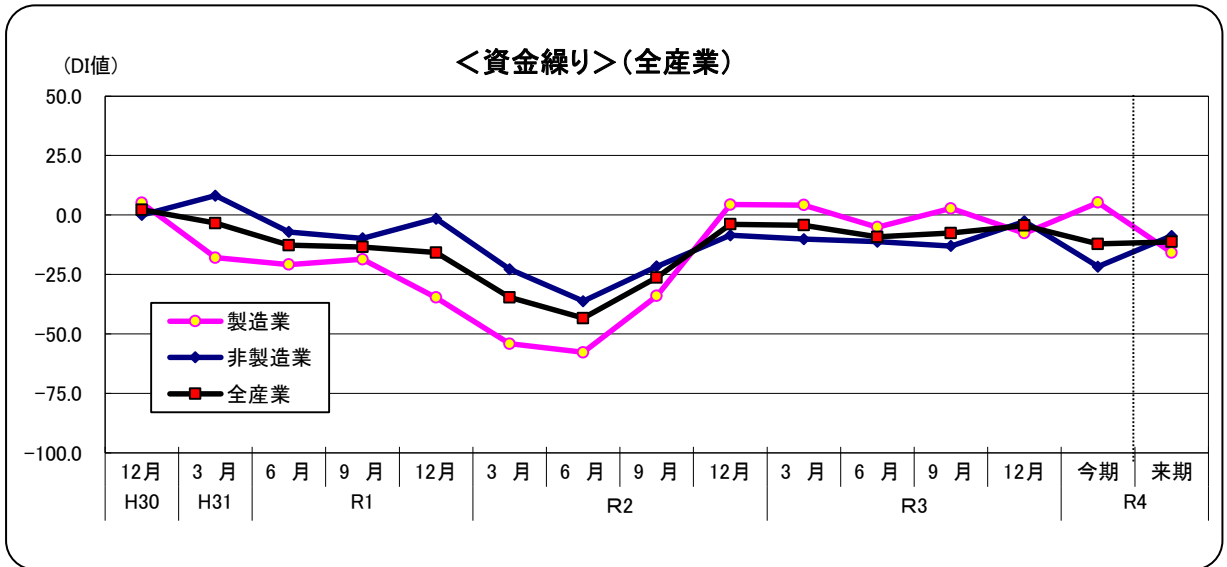
	製造業				非製造業					全産業
	鉄工・機械	繊維	その他	製造計	建設業	小売業	卸売業	サービス業	非製造計	
来期	12.0	0.0	16.7	10.5	4.3	▲ 25.0	18.2	9.7	7.2	8.4
今期	24.0	28.6	0.0	21.1	4.3	▲ 25.0	9.1	▲ 32.3	▲ 13.0	▲ 0.9
前期	34.6	0.0	14.3	25.6	▲ 17.4	▲ 14.3	0.0	▲ 2.9	▲ 8.0	3.5



(4) 資金繰り

(単位:DI)

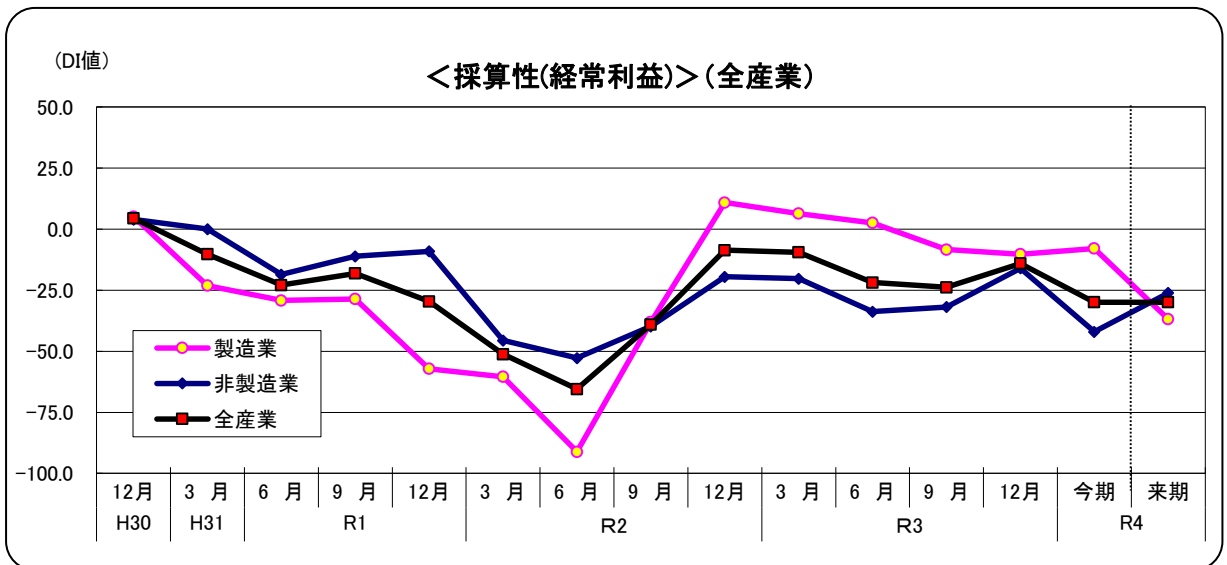
	製造業				非製造業					全産業
	鉄工・機械	繊維	その他	製造計	建設業	小売業	卸売業	サービス業	非製造計	
来期	▲ 16.0	▲ 14.3	▲ 16.7	▲ 15.8	▲ 13.0	▲ 25.0	0.0	▲ 6.7	▲ 8.8	▲ 11.3
今期	▲ 4.0	28.6	16.7	5.3	▲ 8.7	▲ 50.0	0.0	▲ 35.5	▲ 21.7	▲ 12.1
前期	0.0	▲ 33.3	▲ 14.3	▲ 7.7	4.3	▲ 28.6	20.0	▲ 8.8	▲ 2.7	▲ 4.4



(5) 採算性(経常利益)

(単位:DI)

	製造業				非製造業					全産業
	鉄工・機械	繊維	その他	製造計	建設業	小売業	卸売業	サービス業	非製造計	
来期	▲ 48.0	0.0	▲ 33.3	▲ 36.8	▲ 47.8	▲ 50.0	▲ 27.3	▲ 6.5	▲ 26.1	▲ 29.9
今期	▲ 12.0	14.3	▲ 16.7	▲ 7.9	▲ 43.5	▲ 50.0	▲ 45.5	▲ 38.7	▲ 42.0	▲ 29.9
前期	3.8	▲ 33.3	▲ 42.9	▲ 10.3	▲ 21.7	▲ 42.9	▲ 10.0	▲ 8.6	▲ 16.0	▲ 14.0



今期(第4四半期)直面している経営上の問題点(複数回答可)

(n=106)

仕入単価の上昇	36社	34.0%		34.0%
原材料の高騰	36社	34.0%		34.0%
従業員の確保難	29社	27.4%		27.4%
経費の増加	28社	26.4%		26.4%
エネルギーコストの増加	28社	26.4%		26.4%
新型コロナウイルスによる売上減少	23社	21.7%		21.7%
需要の停滞、売上の減少	17社	16.0%		16.0%
販売単価の低下・上昇難	6社	5.7%		5.7%
後継者の育成・確保	4社	3.8%		3.8%
競争の激化	3社	2.8%		2.8%
その他	8社	7.5%		7.5%

Q「経営上の問題点」の項目における「10. その他」の意見

働き方改革による残業時間の制約 (鉄工・機械)
原材料の調達不安(ICなど)、 ロシアのウクライナ侵攻が世界に与える影響を注視している (鉄工・機械)
技能実習生の受け入れ停滞、溶接ヒュームに関する法律対応 (鉄工・機械)
技能・技術の継承、若手社員の育成 (鉄工・機械)
物価の上昇から経費は増加すると思う (その他サービス業)
新車の納期の遅れ (その他サービス業)
貸出先の業況悪化 (その他サービス業)
特になし

	鉄工・機械 (n=25)	繊維 (n=7)	その他製造 (n=6)	建設業 (n=23)	小売業 (n=4)	卸売業 (n=11)	サービス業 (n=30)
仕入単価の上昇	40.0%	28.6%	50.0%	39.1%	25.0%	18.2%	30.0%
原材料の高騰	48.0%	14.3%	66.7%	34.8%	25.0%	27.3%	23.3%
従業員の確保難	48.0%	28.6%		30.4%			26.7%
経費の増加	32.0%	57.1%	16.7%	26.1%	25.0%		26.7%
エネルギーコストの増加	48.0%	42.9%	33.3%	13.0%	25.0%	9.1%	20.0%
コロナウイルスによる売上減少	12.0%	14.3%	16.7%	21.7%	25.0%	27.3%	30.0%
需要の停滞、売上の減少	8.0%	14.3%	16.7%	17.4%	50.0%	9.1%	20.0%
販売単価の低下・上昇難	8.0%	14.3%		4.3%		9.1%	3.3%
後継者の育成・確保	4.0%	14.3%					6.7%
競争の激化			16.7%		25.0%	9.1%	
その他	16.0%						13.3%

Q具体的な問題点や対応策

これからの経済状況でどうなるのか（鉄工・機械）
特に対応出来ていない（鉄工・機械）
DXを利用しながら新規の顧客を増やす（鉄工・機械）
夜勤で機械の稼働時間を増やし残業を抑える（鉄工・機械）
タイムリーな人材獲得が困難（鉄工・機械）
人員確保がままならない、不足分をなんとか人材派遣で対応しているがその部分が大幅に利益を減少している（鉄工・機械）
値上げの要請を受け入れてくれない。交渉しても無回答もしくはたらい回しにされる（鉄工・機械）
仕入価格上昇分のスムーズな販売価格への転嫁（鉄工・機械）
鉄・ステンレス・アルミ・電力・梱包副資材等の高騰（鉄工・機械）
エネルギー比率増大によるユーザーには価格改定の依頼（鉄工・機械）
違う分野にチャレンジする。B to Cを実践する（繊維）
製造コストの高騰を価格に転嫁できない。人材確保難（繊維）
まん延を早く解除して、ムードを明るくして欲しい（その他製造）
材料コスト高を吸収するための施策立案と実行（その他製造）
採用活動の強化、人材確保の強化を図っている（建設業）
業種にあった人材の確保が難しい（建設業）
社員の高年齢化対策（建設業）
従業員確保の為に完全週休二日制を取り入れたことで労務単価が上昇した（建設業）
仕入価格の上昇により、利益率が低くなる。現時点での対応策が無い(受注量も少ない為) 土木の有資格者の採用を希望（建設業）
ウクライナ情勢による原油価格の高騰（建設業）
電力会社の変更等（建設業）
新規事業開拓（小売業）
価格、販売サービスの見直し（小売業）
売価への転嫁（卸売業）
2,3月の仕入価格の上昇が多品目に亘り続いている（卸売業）
ロシアのウクライナ侵攻によるエネルギー・原材料の供給に懸念（卸売業）
人員の確保 定休日の増加でなんとか対応（卸売業）
社員の高齢化（運輸）
コロナによる休業などで売上がなくなる（飲食業・宿泊）
コロナで影響受けない業種に我が社のパート・バイトが転職（飲食業・宿泊）
まん延防止による時短営業の影響、原材料高騰による仕入単価の上昇（飲食業・宿泊）
先の状況の見通しが見つからない（飲食業・宿泊）
今後更に単価上昇（その他サービス業）
顧客数の減少と売上単価の低下が問題だ（その他サービス業）
関与先の動向に影響を受ける（その他サービス業）
特になし

## ■ その他、意見・要望

①経営努力によるコスト削減は、小さい幅の値上げなら可能だが、この頃は運賃からその他の資材にも全てにかかっているから、価格を見直すしかないだろう（鉄工・機械）
②安宅新での造成状態をもっと発信してほしい。（価格帯や取得土地規模等）ただし、出来ることなら県外からの進出企業は避けて頂きたい。進出企業には大概助成金が発生するが、我々現状市内在住者及び在住企業の税金からの収出で補うものであり、今後の市内に落とす税金が増額するも人員の取り合いも含めて零細企業には大変厳しい状況になる可能性があるからだ（鉄工・機械）
③公的助成金などがあれば、教えて欲しい（繊維）
④今の所、目ぼしい対策がないので、良い対策があれば、ご指導願います（建設業）
⑤全ての業種において、早急に景気対策を講じてほしい（建設業）
⑥世界情勢で全てが大きく変わる。コロナが終息してもすぐにはこの3年を取り戻すことは考えられない。皆体力が無くなってきている（その他サービス業）
⑦資金相談など対応願います（その他サービス業）

### 会議所コメント：

#### ③④⑦

本所では、金融あっせんや創業支援、また事業所の課題解決のニーズに合わせた個別相談を実施しています。また、会報やHP・SNSを活用して補助金・助成金等の情報提供を行っています。その他、調査研究、経営に関する最新情報のご提供やセミナー・検定試験などによるスキルアップ、青年部活動や女性会活動などヒューマンネットワークづくりをお手伝いします。

また、行政の関連部署や石川県産業創出支援機構（ISICO）等と連携を図り、会員事業所の要望にお応えすべく対応して参ります。

#### ①②⑤⑥

本所の関係委員会・部会等での議論を踏まえ、中小企業の発展を目的とした適切な要望・提言活動を継続的に実施して参ります。

### 【メールマガジン配信中！】

会員事業所の皆様に、当所の講習会や補助金・助成金情報のほか、融資制度や各種イベント情報などをタイムリーにお届けするメールマガジンを始めました。ご購入は無料ですので、ぜひご登録ください。

※こちらのQRコードからご登録ください。



**議員・評議員各位**  
**「小松商工会議所景気見通し調査」**  
**「新型コロナウイルスによる影響調査」実施のお願い**

新型コロナウイルス感染症の拡大により経営に影響を受けている皆さま方におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。

本所では、議員・評議員を対象に、四半期毎に行っている景気見通し調査並びに新型コロナウイルス感染拡大による企業活動への影響調査を実施いたします。

ご多忙の折誠に恐縮とは存じますが、下記調査にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

※前回までの調査結果は本所HPに掲載しています。

**貴社名** \_\_\_\_\_ (個別企業名・個人名が公表されることはありません)

**貴社の業種は** 1. 鉄工・機械 2. 繊維 3. その他製造 4. 建設業 5. 運輸  
 6. 小売業 7. 卸売業 8. 飲食業・宿泊 9. その他サービス業  
**従業員数は** 1. 5名以下 2. 6～20名 3. 21～50名 4. 51～100名  
 5. 101名～200名 6. 201名以上

※本調査における「前期」、「今期」、「来期」は以下の期間を指しますので、ご注意ください。

**景況・業況の動向**

○前期＝令和3年度第3四半期(令和3年10月～12月)

○今期＝令和3年度第4四半期(令和4年1月～3月、但し3月は見込み)

○来期＝令和4年度第1四半期(令和4年4月～6月)

	I. 今期(第4四半期)の状況	II. 来期(第1四半期)の見通し
	前期(第3四半期)と比べた 今期(第4四半期)の状況	今期(第4四半期)と比べた 来期(第1四半期)の見通し
1. 景況感	1. 好転 2. 不変 3. 悪化	1. 好転 2. 不変 3. 悪化
2. 売上高	1. 増加 2. 不変 3. 減少	1. 増加 2. 不変 3. 減少
3. 売上単価	1. 上昇 2. 不変 3. 低下	1. 上昇 2. 不変 3. 低下
4. 資金繰り	1. 好転 2. 不変 3. 悪化	1. 好転 2. 不変 3. 悪化
5. 採算性(経常利益)	1. 好転 2. 不変 3. 悪化	1. 好転 2. 不変 3. 悪化

景況感(今期)の選定理由をご記入下さい。

景況感(来期)の選定理由をご記入下さい。

**今期(第4四半期)直面している経営上の問題点(複数回答可)**

- |                     |                        |
|---------------------|------------------------|
| 0. 新型コロナウイルスによる売上減少 | 1. 大企業の進出や過当競争による競争の激化 |
| 2. 仕入単価の上昇          | 3. 経費の増加               |
| 4. 販売単価の低下・上昇難      | 5. エネルギーコストの増加         |
| 6. 原材料の高騰           | 7. 需要の停滞、売上の減少         |
| 8. 従業員の確保難          | 9. 後継者の育成・確保           |
| 10. その他( )          |                        |

問題点や対応策を具体的にご記入下さい。

--

## 新型コロナウイルスによる売上減少について

【設問1】令和3年同月と比べた令和4年2月の貴社の売上高についてお聞かせください。

1. 減少(20%以上)      2. 減少(20%未満)      3. 横ばい      4. 増加

【設問2】令和3年同月と比べた令和4年1月～3月の貴社の売上高(見込み)についてお聞かせください。

1. 減少(20%以上)      2. 減少(20%未満)      3. 横ばい      4. 増加

【設問3】(設問2で「選択肢4」を選択した方にお伺いします)売上の増加幅についてお聞かせください。

1. +10%未満      2. +20%程度      3. +30%程度      4. +40%程度      5. +50%以上

【設問4】コロナ禍前の令和元年同月と比べた令和4年2月の貴社の売上高についてお聞かせください。

1. 減少(20%以上)      2. 減少(20%未満)      3. 横ばい      4. 増加

【設問5】コロナ禍前の令和元年同月と比べた令和4年1月～3月の貴社の売上高(見込み)についてお聞かせください。

1. 減少(20%以上)      2. 減少(20%未満)      3. 横ばい      4. 増加

【設問6】(設問5で「選択肢4」を選択した方にお伺いします)売上の増加幅についてお聞かせください。

1. +10%未満      2. +20%程度      3. +30%程度      4. +40%程度      5. +50%以上

## 雇用情勢について

【設問7】現在の人員の充足状況についてお聞かせください。

1. 不足している      2. 過不足はない      3. 過剰である

【設問8】令和4年の採用について、人材ごとにそれぞれお聞かせください。

【高卒】      1. 人数を増やす      2. 現在と同程度の人数      3. 人数を減らす      4. 採用しない

【大卒】      1. 人数を増やす      2. 現在と同程度の人数      3. 人数を減らす      4. 採用しない

【女性】      1. 人数を増やす      2. 現在と同程度の人数      3. 人数を減らす      4. 採用しない

【高齢者】      1. 人数を増やす      2. 現在と同程度の人数      3. 人数を減らす      4. 採用しない

【外国人】      1. 人数を増やす      2. 現在と同程度の人数      3. 人数を減らす      4. 採用しない

【障がい者】      1. 人数を増やす      2. 現在と同程度の人数      3. 人数を減らす      4. 採用しない

※高齢者:主に60代以上の人材

## 原油価格高騰に伴う影響について

原油価格が値上がりし、燃油をはじめとするエネルギーコストや原材料価格の高騰により、中小企業・小規模事業者の収益が圧迫されることが懸念されます。

【設問9】原油価格高騰に伴う影響についてお聞かせください。

1. 影響がある                      2. 影響はない                      3. わからない

【設問10】(設問9で「選択肢1」を選択した方にお伺いします)影響の内容をお聞かせください。

【具体的に内容をお書きください】

【設問11】原油価格高騰に対する対応策についてお聞かせください。(複数回答可)

1. 経営努力によるコスト削減                      2. 価格転嫁の要請  
3. 調達方法の多様化                                  4. 設備投資計画の見直し  
5. 製造・販売品目の見直し                      6. 人員削減等の雇用調整  
7. 代替エネルギー・素材の活用                      8. 公的助成金・融資の申請  
9. 特に対策は講じていない                      10. その他(                                  )

その他、ご意見やご要望がありましたら、具体的にご記入下さい。

■ 下記アドレス・QRコードからも回答可能です。 ※下記からご回答の際は、次回調査よりメールでのご案内となります

【令和3年度第4四半期景気見通し調査】⇒ <https://forms.gle/MpmtNwjgrhGDq12H6>



**回答締切: 3月25日(金)必着 (FAX: 21-3120 までご返信ください)**